

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690200300		
法人名	株式会社メディカルケア		
事業所名	ケアホームなかそね		
所在地	富山県高岡市中曾根2374		
自己評価作成日	令和4年3月15日	評価結果市町村受理日	令和4年7月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.toyama-shakyo.or.jp/kouhyou">https://www.toyama-shakyo.or.jp/kouhyou</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	令和4年3月24日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの建物は、利用者が心地よく過ごせるよう古民家風に建てられている。利用者様には健やかな毎日を過ごして頂けるよう、手作りヨーグルトやミネラル不足を補うためのミネラル水、認知症に効果がある乳酸菌(マウスケア)の服用や身体の活性酸素を除去する水素吸入を毎日提供している。新型コロナウイルス感染防止のため、ホームでは24時間ジアイノ(次亜塩素酸空間除菌脱臭機)やオゾン発生器を稼働させている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・古民家風に建築され、自然な照明や畳敷きの居室等、ゆったりとした空間で過ごすことができる。  
 ・コロナ禍前は、地域の老人会の参加や、近隣の小学校の見守り隊をするなど地域に密着した活動をしていた。  
 ・法人代表は利用者の健康を第一に考え、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策をとったり、塩麴、ヨーグルトを手作り、ミネラル水などを取り入れたりして健康な生活に気をつけている。また、行事ごとにプレゼントを贈るなど、楽しく笑顔で過ごせるようにしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念の唱和を行い、挨拶訓練で倫理の17ヶ条を読み上げ、職員一人ひとりが今日も一日笑顔で利用者様に接することができるよう気持ちを引き締めている。	法人代表が作成した理念「その人らしく一緒にくらす」を、毎日申し送り時に唱和し、利用者笑顔で優しく寄り添う支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、地域の祭りや小学校の行事に招いて頂いているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加や出席を控えている。ホームでの納涼祭も、利用者様のみ参加して頂き規模を小さくして開催した。	コロナ禍以前は、地域の方々に納涼祭に参加してもらったり、利用者とともに通学路の見守り隊を行ったりしていた。今後も地域の一員として行事の参加や役割をもつことを支援していきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校6年生を対象に、認知症サポーター養成講座を開催しているが、2020年度より新型コロナウイルス感染予防のため開催していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催していたが、新型コロナウイルス感染予防のため開催しておらず、2022年1月より再開。報告書を作成し、地域包括支援センター、市町村に提出している。	コロナ禍で開催出来ていなかったが、1月から自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表に参加してもらい再開している。議題は、運営状況や活動報告に加え、地域住民で手助けが必要な高齢者情報など、地域に密着した内容になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は新型コロナウイルス感染予防のためほとんど中止となっているが、2022年1月より再開。報告書を提出している。苦情や問題が出た場合には即日、市町村に報告している。	地域包括支援センターの職員から、介護保険や市の取り組みについての情報を聞いている。市のグループホーム部会などはコロナ禍のため参加は控えているが、資料を提供してもらい、内容を把握している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠している。毎週カンファレンス時に身体拘束チェック表を用い、職員同士お互いのケアを確認している。特に忙しい時はスピーチロックをしてしまう時があり、その都度職員同士声を掛け合っている。	管理者がインターネット上の研修資料を活用し、職員に向けた研修を行っている。利用者個々の身体拘束チェック表を作成し、毎週行うカンファレンスの時に評価している。スピーチロックなどは職員同士で注意し合っている。	内部研修だけでなく、外部の研修にも参加し、情報共有や気づきをケアの向上につなげることが望ましい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	アザや傷がないか入浴時やトイレ誘導時に身体チェックをしている。虐待について、定期的にホーム内研修で学ぶ機会を作っており、2022年1月21日に開催した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおられるが、職員のほとんどが理解不足なので、ホーム内研修で学ぶ機会を作っているが、今年度はまだ開催していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、家族の疑問や不安点を必ず聞き、それに対して十分な説明を行い理解して頂いている。例えば、急病の際、家族様が受診に連れて行けない時はどうすればよいかという不安に対して、急病時は、ホームの職員が受診にお連れしますと伝え、安心して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が気軽に意見を出せるよう玄関に意見箱を設置している。運営推進会議で家族様から出た意見や要望を運営に取り入れるよう努めている。家族様も避難訓練に参加したいという意見があり、取り入れるよう努めている。	意見箱は設置してあるが、意見が入ったことはない。家族や利用者からの要望や意見は口頭で聞き、できるものはその場で解決している。また、法人にあげ解決すべき課題は、代表に確認した上で回答している。	意見や要望について、当事者だけではなく、他の家族や利用者にもフィードバックし共有することに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、月2回の定例会の開催時や日報の報告時に代表に報告し、適切な指示やアドバイスを得ている。	管理者は職員個々に意見を聞いている。その場で解決できないことは、月2回の法人全体の定例会の時に解決している。職員は、管理者や法人代表から定期的にアドバイスがもらえることができる環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給あり。腰痛など体調が万全ではない職員には、NTA(神経伝達調整治療)の先生を招き、施術を受けられる機会を頂いている。ロッカールームに休憩室を整備しており、心身を休める場を提供している。資格取得したい職員には、勉強に集中できる環境を整えるなどサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の全体研修は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催していないが、外部研修はリモートで参加している。職員の質を上げるため、資格取得の意思がある職員には、勤務調整し研修に参加できる環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染防止のため研修の機会は減っているが、代表は職員の間力向上やスキルアップのために、外部研修の参加を勧めている。外部研修で、同業者以外の方と交流する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員、本人がどう過ごしているか、他利用者様と馴染めているか不安な様子はないか気を配り、利用者や馴染めるよう声かけしたり、本人の話を聞いたり関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回訪問時、家族から困っていること、不安なこと、要望を聞き、サービス利用後は本人の様子を伝えている。新型コロナウイルス感染防止のため面会は中止しているため、家族が差し入れを持参された時や電話で本人の様子を伝えている。Zoomで面会できるような環境整備している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族より要望や困っていることや不安を聞き、本人の様子から必要としているサービスを提供するよう努めているが、実際はできていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に暮らす者同士として、出来る範囲での家事(洗濯物干し、洗濯物たたみ、茶碗ふき)をして頂いているが、新型コロナウイルス感染防止のため現在は行っていない。今はモップがけをして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事(納涼祭、文化祭など)には、家族を招いて一緒に過ごす時間を作っていたが、新型コロナウイルス感染防止のため、納涼祭・文化祭を行っても家族は招いていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主治医への受診は、主に家族の付き添いだったが、新型コロナウイルス感染防止のため職員が付き添っている。家族や友人との面会も、感染防止のため行っていないが、関係が途切れないよう、本人の近況を伝えている。	コロナ禍により家族の面会回数も減ってきているため、リモートでの面会ができるような環境を整えている。リモートの操作が難しい家族は、ガラス越しでの面会もできるようになっている。現在は、電話で近況を家族に伝えていることが多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の利用者様一人ひとりの様子、体調をもとに食事の席を考えている。利用者様同士の関係に変化があれば、カンファレンスで話し合いその都度対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族様に本人の近況を伺い、家族様から相談を受ければ出来る限りの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や関わりから利用者様一人ひとりの思いを把握し、その思いに沿うように支援している。「何かすることある？」と常に聞いてくる利用者様には、時々おやつ作りを一緒に行っている。反面、全員の思い、意向は把握しきれていない。	日頃の会話の中で、利用者の思いを確認している。意思疎通が困難な方は、ジェスチャー等で把握し、対応している。日常的な思いは聞き取れているが、今後の生活に関する意向等は聞き取れていない。	利用者の思いを汲み取り、支援に繋がられるよう、聞き取ったことを記録し、職員間で共有出来るよう期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人の話聞き、これまでの生活歴や生活環境の把握に努めている。大好きな歌手がいる方には、その歌手のCDを持ってきてもらい、ホールで曲をかけて皆で楽しめるよう支援しているが、全員のこれまでの暮らしの把握までには至っていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜間の様子、バイタル、食事量、水分量、排泄を毎日記録し、生活リズムの把握に努めている。状態変化があれば、申し送り時に職員同士で情報を共有し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週1回のカンファレンスで一人ひとりの現在の状況、課題、関わり方を話し合っているが、現状に即した介護計画の作成に至っていない。	毎週行われるカンファレンスで、利用者の状態や変化の確認を行っている。それを基に施設の介護支援専門員が介護計画を作成し、6ヶ月ごとに更新されているが、現状に即した内容になっていない。	職員、家族の意見を反映した介護計画を作成し、それに基づく課題の解決や、本人、家族の思いの把握ができるように期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日利用者様一人ひとりの支援経過を記録し、必要ならば24時間シートを活用している。週1回のカンファレンスで情報を共有し、前回のカンファレンスから1週間の様子を話し合いケアの見直しを行っているが、活かしてきれていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	代表の提案により、身体の活性酸素を除去する水素吸入の水素ポットを設置し、利用者様に一日一回水素吸入を行っている。また、認知症の方に効果のある乳酸菌(マウスケア・金沢大学教授とのコラボ)を家族様から希望あれば購入して頂き、毎日服用している。日頃から年齢を問わずミネラル不足が懸念されているので、毎日ミネラル水を提供している。便秘が解消されたことと喜ぶ利用者様もおられ、毎日飲むのを楽しみにしておられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム前が通学路なので、下校時に小学生の見守り隊を行っているが、新型コロナウイルス感染防止のため中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族に協力して頂いていたが、新型コロナウイルス感染防止のため職員が付き添っている。受診前後は、必ず家族に状態報告を行っている。	かかりつけ医への受診の意向は契約時に確認している。かかりつけ医へは定期受診しているが、コロナ禍からは家族の受診介助は中止しているため、職員が付き添っている。その他の方は訪問診療で受診しており、それに基づき医療計画が作成され支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化があれば、すぐにホームの看護師に伝え受診に繋げている。週1回の訪問看護では、1週間の様子を訪問看護師に伝え、ホームの看護師と訪問看護師の連携に努めている。代表が看護師であるため、助言・指導を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、即日介護サマリーを作成し提出している。退院時には利用者様の現状を詳しく把握するため、入院期間中は定期的に病院関係者からの情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様には、契約時に看取りができることを説明している。終末期について家族が希望すれば、主治医、家族、訪問看護と話し合い連携し、チームで支援に取り組んでいる。	施設として看取りを行っており、家族には契約時にその旨説明を行っている。終末期や重度化により医療行為が必要になった場合は、家族、医師と相談し、施設での看取り対応や転院等の相談、支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、救命講習を受講している。ホームにはAED、救急カートが設置されている。全体研修でAEDの使用方法や緊急時の対応について学んでいるが、ホーム内での定期的なシミュレーションはなかなか行なえていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員で日中・夜間の避難訓練を2ヶ月に1回、消防署立会いの避難訓練は半年に一回行っているが、新型コロナウイルス感染防止のため中止になることが多い。地震・津波時・水害時の避難訓練は行っていない。BCPマニュアルは作成中である。	2ヶ月に1度、施設全体で日中または夜間を想定した火災避難訓練を行っている。その他の災害の対応は、コロナ禍のため出来ていない。災害計画は作成中である。備蓄は3日分の準備をしているが、リスト化されていない。	家族や地域の方とともに避難訓練を実施できる計画や、備蓄品のリストを作成し、管理できるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時、入浴時に戸を閉める等、プライバシーに配慮している。言葉使いには気をつけて対応しているが、利用者様が耳が遠い事もあり声が大きくなったり、強い口調で話してしまう事がある。何度も研修で介護職としての言葉使いを学んだが、なかなか身に付いていない。	施設内で接遇や尊厳についての研修を行っている。毎朝の申し送り時に、挨拶や声掛けについても確認をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の出来ること、出来ないこと、したいことを日常生活の会話で聞いている。自己決定が難しい利用者様にはどちらがいいのかの2択で聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースでゆったり過ごして頂いている。眠気がありうとうとしておられる方には、居室に誘導し休んで頂いたり、天気の良い日に窓際に来られる方には、日向ぼっこができるよう椅子を勧めたり、何か手伝いたいと言われる方には、モップがけをお願いしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	代表の提案で、化粧水、シャンプー、トリートメントを使って頂いている。1カ月半程に1回、ホームに美容師の方に来ていただいているが、新型コロナウイルス感染防止のため中止している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるよう食事形態に考慮している。箸の使用が難しい利用者様にはスプーンを使用し食べて頂くが、掻き込みに注意し、見守りをしている。	管理栄養士が献立を立て、職員が食材を買い出しして手作りしている。月に2回、お楽しみランチで好みのメニューを提供している。おやつは利用者と一緒に手作りして楽しんでいる。利用者の栄養を考え、塩麴やヨーグルトを手作りし、毎日健康な食事が摂取できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分摂取量を必ず記録し、水分摂取がなかなか進まない利用者様には、家族に本人の嗜好品(コーヒーなど)を持参して頂き、水分摂取に努めている。食事形態は、トロミをつけたり、軟飯を全粥にしたりなど、本人の体調、嚥下能力に合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声掛け誘導し、見守りや介助にて口腔ケアを行なっている。本人の状態に合わせて、歯ブラシや口腔スポンジを使い分けている。歯に異常があれば、連携している歯科医院に訪問診療を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の度にチェック表に記入し排泄パターンを把握し、適切な時間にトイレ誘導している。トイレが自立している方でも、時々リハビリパンツ内の確認をしている。夜間はオムツ使用の方でも、日中は紙パンツを使用しトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を付け、トイレでの排泄を支援している。自立の方以外は、見守り介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日手作りヨーグルトや便秘に体調を整えるためミネラル水を提供している。認知症にも効果がある乳酸菌(マウスケア)を服用したり、毎日水分を1,500cc摂取して頂くよう努めているため、便秘になることが減っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回1日おきに入浴している。職員の都合で入浴日を変更することがある。ゆっくり湯船に浸かりたい利用者様がおられるが、体調を考慮し早く上がるよう声かけしてしまう。入浴を希望されなかった方には、清拭・DDS石けん(皮膚のターンオーバーを促す)での足浴等で清潔保持を支援している。	週3日、午後に入浴の時間を設けている。一般入浴で手すりを使い、職員が入浴支援をしている。施設から、おすすめのシャンプーや化粧水を提供している。入浴をしない方には足浴剤を使い足浴し、気持ちよく過ごせる様に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	代表の提案として、居室にアロマディフューザーを設置し、リラックス効果や安眠効果のあるアロマオイルを使用し、穏やかに気持ちよく入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報は必ずファイリングし、確認したい時にすぐに取り出せる場所に置いている。服薬時には、誤薬がないように利用者様の名前、日付、時間を必ず確認している。体調不良で受診し、内服薬が変更・追加になった時は、かかりつけの薬剤師に情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりに合わせた役割(家事の手伝いなど)をして頂いていたが、新型コロナウイルス感染防止のため制限されているので、主におやつ作りなどを手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近所の公園まで散歩し体操したり、ファミレスで外食などしていたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止している。2022年2月より月2回、焼いもキッチンカーが来店し、利用者様と焼いもを買いに行く機会あり。新型コロナウイルス感染が落ち着いたら、ドライブに行くなどの支援をしたい。ドライブ時も必ず新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し、楽しんで頂けるよう支援に努めます。	コロナ禍でほとんどの外出は制限しているため、買い物や散歩も中止にしているが、天候の良い日には敷地内の庭や畑に出て野菜の収穫を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでの外食時、食べたい物を選んでもらったり、一緒に買い物に出かけていたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話は、家族様や本人が希望すれば取り次いでいる。自分で年賀状が書ける方には、書ける範囲で書いて頂いている。家族からの手紙は、自分で読める方には渡し、読めない方には代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新型コロナウイルス感染予防のため、ホールには空気清浄機、ジアイーノ(次亜塩素酸空間除菌脱臭機)、オゾン発生器を設置し24時間稼働させている。玄関とホールには、超音波式加湿器を設置し、抗菌・抗ウイルス効果のあるアロマオイルをたいている。ホールは床暖房が完備されており、底冷えしないようになっている。	各居室に囲まれた中央に共有空間が広がっている。建物は古民家屋にこだわり、木をふんだんに使い天井も高く、天窓から光彩を取り入れている。トイレや浴室は少し奥ばって配置し、プライバシーに配慮されている。テレビの前にソファが置かれ、ゆったり過ごせるよう配置されている。空気清浄機やアクリル板等を使い感染予防対策を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファが設置され、利用者様同士談笑したり、テレビを見たり、思い思いに過ごされている。天気の良い日には、テラスに出て日向ぼっこをして、ゆっくり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた身の回りの品や家族の写真など馴染みのものを持参して頂き、本人が居心地よく過ごせる環境作りがされている。	居室はフローリング部分が3分の1で、あとは畳になっている。窓は障子戸になっており、ベッドと整理タンスが配置され、整理、整頓されている。表札は地域名と番地が記され、居室がわかりやすいようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、手すりが設置され段差がないので、自力操作での車椅子、歩行器の移動がスムーズに行えるようになっている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	・入居者の思いや希望の把握が出来ていないので、ケアの統一性に欠けている部分がある。	・日頃の身体的ケアのニーズではなく、これから「どんな生活を送りたいか？」などを本人や家族から聞き取る。	・日頃の会話の中で聞き取った内容や、家族からの思いや希望を介護計画に取り入れ、カンファレンスで評価していく。	6 ヶ月
2	35	・火災以外の訓練が出来ていない。 ・スタッフが避難場所や備蓄品の把握ができていない。	・水害、地震、停電等の自然災害における訓練を実施する。 ・備蓄品リストを作成し平時から準備を整えておく。	・年間の計画を立てて水害、地震、停電になった時のBCPIに沿った訓練をホーム内研修に取り入れる。 ・まずは机上訓練から実施。	6 ヶ月
3	10	・意見箱の設置はしているが、意見や要望はない。	・本人、家族の普段からの会話の中で希望や意見を聞く機会を作る。 ・質問や意見があった場合は、管理者、代表に確認した上で返答する。	・運営推進会議や面会時等に家族からのご要望や意見を聞けるようにする。	6 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。